

授業科目	保 健	単 位	1	履修対象	普 通 科	学 年	2
目 標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を養う。						
授業概要 クラスの単位で教室での講義方式、グループ単位及び個人による調査・実習（視聴覚機材も利用）							
到達目標 個人生活や社会生活における健康・安全に関する事柄に興味・関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができるようにする。							
評価方法		各学期毎の定期テスト・レポート・ノート・授業態度・授業出席状況					
	授 業 計 画						
進行	授 業 内 容			目 標			
4 月～ 6 月	○オリエンテーション Ⅱ 単元 生涯を通じる健康 1. 思春期と性 2. 性への関心・欲求と性行動の選択 3. 妊娠・出産と健康 4. 避妊法の選択と人工妊娠中絶 5. 結婚生活と健康 6. 加齢と健康 ○期末テスト・ノート提出等			・2 学年で何を学んでいくのか道筋を理解する。 ・思春期の特徴について健康面を中心に理解させる。 ・性意識に関する男女の特性、性に関する情報の行動への影響とそれらへの対処について理解させる。 ・受精・妊娠・出産の一連の過程を学習し、胎児や母親の心身の健康問題、予防や健康のための支援について理解させる。 ・家族計画の意義や方法について理解させる。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や本人・家族の保健の立場から理解させる。 ・加齢に伴う心身の健康を、イメージを持って理解させる。 ・これまで習ったことについての理解度を確認する。			
7 月～	7. 保健サービスとその活用			・個人や環境の健康を直接的に、あるいは間接的に支援するためのものである保健制度を、自分に関わるものとして理解させる。			

7月～ 11月	8. 医療サービスとその活用 9. 健康で安全な社会づくり	・必要なときに必要な医療が受けることができるよう、さまざまな医療関係者が養成され、医療機関が設置されていることを理解し、それらが少ない費用で利用できる医療保険の仕組みについても理解させる。 ・生涯を通じて、健康でいきいきと暮らしていくために必要となる、生活の質を維持するための個人の努力と社会的な対策について理解させる。
	Ⅲ単元 社会生活と健康 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境汚染を防ぐ取り組み 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全を守る活動 ○期末テスト・ノート・レポート提出等	・大気をめぐる健康問題について、過去および現在について説明できるようにする。 ・水質汚濁や土壌汚染はどのように起こり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例をあげて説明できるようにする。 ・環境汚染を防ぐためのさまざまな社会対策や個人でできることなど、そうした取り組みの結果や現状を幅広く調べ、総合的な対策を考えようとする姿勢を身につけさせる。 ・ごみ処理と上下水道の整備の現状と仕組みを理解させ、それらの問題点や対策を学ぶ。 ・食品の安全を守るために、行政や食品に携わる業者はどのような役割をはたしているか、また、自分たちが担うべき役割は何なのかを理解させる。 ・これまで習ったことについての理解度を確認する。
12月～	6. 働くことと健康 7. 働く人の健康づくり	・働くことが原因で健康を損なうことがあるということ、働くことにかかわる健康問題は働き方の変化とともに変わってきていることを理解する。 ・労働者の心身両面にわたる健康の保持増進をはかるために、職場では健康診断が義務づけられていること、また、より積極的な取り組みも行われていることを理解する。

1 2月～ 3月	○レポート作成 ○学年末テスト 8. 一年間の総まとめと反省	・1年間学んだ内容から、テーマを選びレポートを作成する。 ・これまで習ったことについての理解度を確認する。 ・この一年間で学んだことや授業に対する心構えや態度はどうだったかを振り返ることによって今後に役立てる。
---------------------	---	---